

2024年3月期 第3四半期 決算補足資料

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 第3四半期 業績（連結）のポイント | P.3 |
| 3. 第3四半期 業績（連結）の状況 | P.4 |
| 4. 第3四半期 業績と予想（連結） | P.5 |
| 5. 主要製品の状況 | P.6 |
| 6. 開発品一覧 | P.7～9 |

2024年2月6日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2024年3月期 第3四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	23年3月期 第3四半期	24年3月期 第3四半期	対前年 (%)	24年3月期 (予想)	対前期 (%)
売上高	74,955	77,717	80,707	87,267	+8.1	116,200	+2.6
営業利益	4,114	2,926	4,702	4,465	-5.0	6,000	+17.1
経常利益	4,656	3,515	5,336	5,053	-5.3	6,500	+11.5
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	4,504	2,483	4,377	3,914	-10.6	4,900	+3.7

24年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、主力製品「ベオーバ」、「ラスビック」等が伸長し、新医薬品等（国内）の売り上げは前年同期を大幅に上回る実績となりました。また後発医薬品の売り上げも増加し、全体の売上高は872億67百万円と前年同期比65億60百万円の増収となりました。

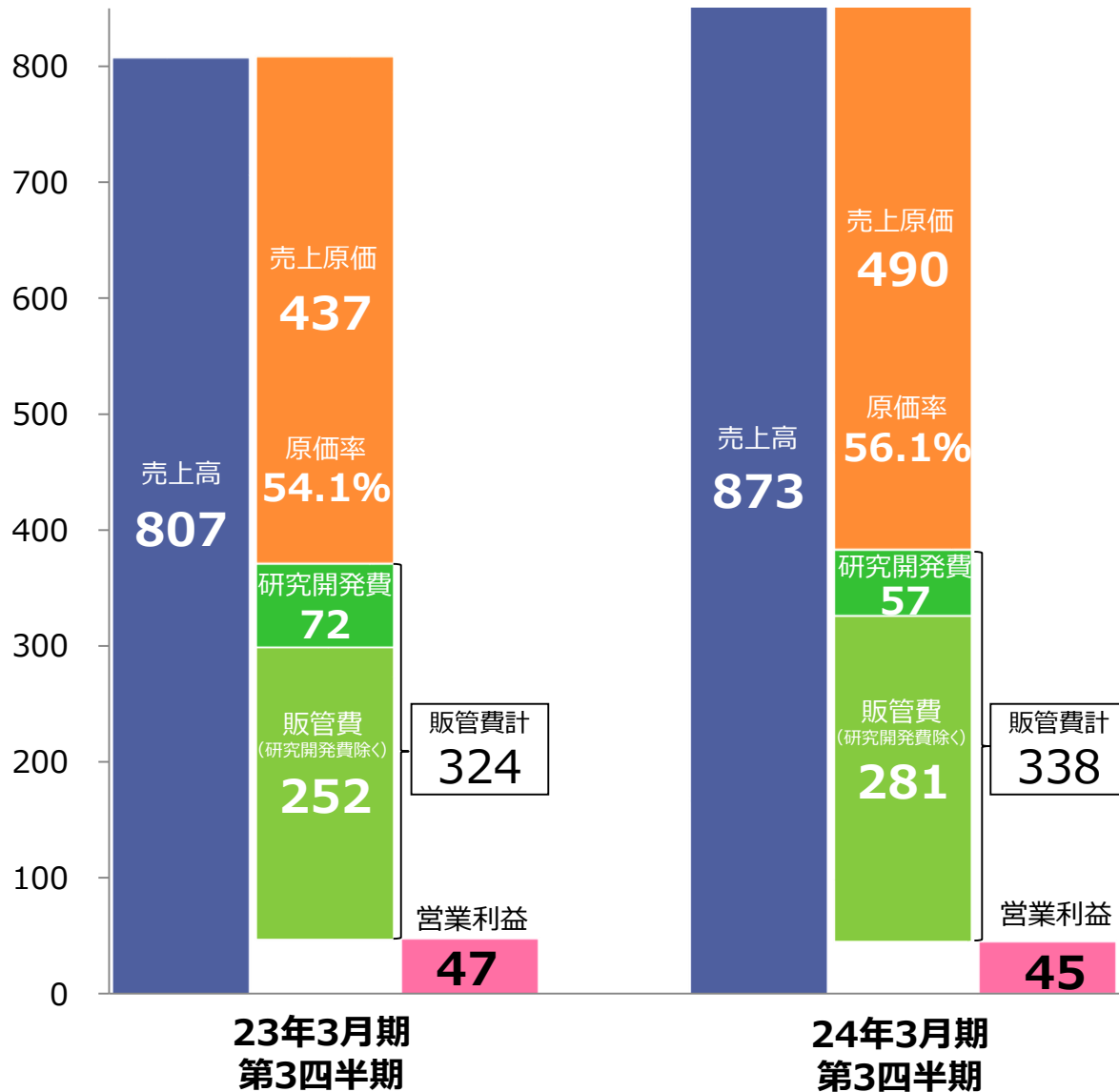
【利益】 売上拡大により売上総利益は383億14百万円と前年同期に対して12億59百万円増加しました。他方、販売費及び一般管理費は14億96百万円増加（うち、研究開発費は14億46百万円減少）した結果、営業利益は44億65百万円（前年同期比2億37百万円減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益として投資有価証券の売却益9億91百万円等を計上し、特別損失として希望退職プログラムに関わる費用8億71百万円等を計上した結果、39億14百万円（前年同期比4億63百万円減）となりました。

24年3月期 連結業績（予想）

現時点におきまして、2023年5月11日に公表した通期の業績予想を変更しておりません。また2023年5月11日に公表した配当予想（年間52円/株）の変更はございません。

2024年3月期 第3四半期 業績（連結）のポイント Kyorin

(単位：億円)



売上高は増加 (+66億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
・主力製品の伸長
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率は 2.0ポイント上昇

【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、ラスピック等）の売上増加
・新薬比率の上昇

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬7%台）
- 後発医薬品の影響

売上総利益は増加 (+12億円)

販管費は 14億円増加

- 研究開発費は 15億円減少
・ActivX解散に伴う減少等
- 販管費（研究開発費除く）は 29億円増加
・販売費、人件費の増加
・減価償却費の増加（本社移転に関わる費用等）
・一般経費の増加（特許等使用料、100周年関連費用等）

営業利益は減少 (-2億円)

2024年3月期 第3四半期 業績（連結）の状況



(単位：億円)	23年3月期 第3四半期	24年3月期 第3四半期	対前年 (額)
売上高	807	873	+66
新医薬品等(国内)	541	606	+65
新医薬品(海外)	5	3	-2
後発医薬品	261	264	+3
営業利益	47	45	-2
経常利益	53	51	-2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	44	39	-5

			(対前年)
■売上高	873億円		(+66)
●新医薬品等(国内)	606億円		(+65)
	23.3 (3Q)	24.3 (3Q)	
・ベオーバ	92	⇒ 134	(+42)
・ラスビック	18	⇒ 37	(+19)
・リフヌア	1	⇒ 7	(+6)
・デザレックス	48	⇒ 52	(+4)
・フルティフォーム	91	⇒ 99	(+8)
・ペンタサ	99	⇒ 95	(-4)
・キプレス	46	⇒ 48	(+2)
・ムコダイン	28	⇒ 32	(+4)
・ナゾネックス	11	⇒ 8	(-3)
・ウリトス	6	⇒ 4	(-2)
●新医薬品(海外)	3億円		(-2)
●後発医薬品	264億円		(+3)
	キプレスのオーソライズド・ジェネリックであるモンテルカスト錠「KM」の売上増加 23年6月追補収載品の売上寄与等		
■営業利益	45億円		(-2)
●原価率：56.1% (前年同期：54.1%)	【低下要因】新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加 —新薬比率の上昇 【上昇要因】薬価改定の影響、後発医薬品の影響		
●研究開発費：57億円 (前年同期：72億円)	ActivX解散に伴う減少等		
●販管費(研究開発費除く)：281億円 (前年同期：252億円)	販売費、人件費、減価償却費（本社移転に関わる費用等）、 一般経費（特許等使用料、100周年関連費用等）の増加		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	39億円		(-5)
	特別利益：投資有価証券売却益9億91百万円等 特別損失：希望退職プログラムに関わる費用8億71百万円等		

2024年3月期 第3四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)	第2四半期		第3四半期				通期		
	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	23年3月期 (実績)	24年3月期 (予想)	進捗率 (%)
売上高	49,093	54,937	80,707	87,267	+6,560	+8.1	113,270	116,200	75.1
新医薬品等（国内）	32,651	37,875	54,055	60,587	+6,532	+12.1	74,770	79,100	76.6
新医薬品（海外）	312	167	532	291	-241	-45.3	308	400	72.8
後発医薬品	16,128	16,895	26,119	26,388	+269	+1.0	38,190	36,600	72.1
営業利益	777	1,144	4,702	4,465	-237	-5.0	5,123	6,000	74.4
経常利益	1,171	1,387	5,336	5,053	-282	-5.3	5,827	6,500	77.7
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	1,242	1,757	4,377	3,914	-463	-10.6	4,723	4,900	79.9

2024年3月期 第3四半期 主要製品の状況



(単位：億円)	第2四半期		第3四半期				通期			
	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	23年3月期 (実績)	24年3月期 (予想)	進捗率 (%)	
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	55	83	92	134	+42	+44.9	129	189	70.5
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	10	25	18	37	+19	+111.9	25	32	113.5
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	1	4	1	7	+6	+389.9	2	13	49.4
	デザレックス (アレルギー-性疾患治療薬)	30	31	48	52	+4	+8.8	85	89	58.4
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	57	62	91	99	+8	+8.7	120	114	86.0
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	65	61	99	95	-4	-4.5	128	118	80.0
	キプレス (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	27	26	46	48	+2	+5.5	66	53	91.1
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	15	20	28	32	+4	+17.4	35	30	105.9
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー-性鼻炎治療剤)	6	4	11	8	-3	-28.9	25	12	62.0
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	4	3	6	4	-2	-26.0	7	2	142.5
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	10	16	15	-1	-6.4	20	19	75.4
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	11	8	16	12	-4	-25.8	21	21	57.2	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	54	58	87	92	+5	+5.9	133	110	83.2
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー-性鼻炎治療剤)	11	9	19	19	0	-3.0	47	34	55.0
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	4	3	5	5	0	-14.3	7	4	96.3

開発品一覧① (2024年2月6日現在)

Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 (22年9月)	Ph3 (エイタイヤー社 : 米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤー社	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (22年8月)	—	KRP-114VP	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 (21年4月: 英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧②（2024年2月6日現在）

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬(株)	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬(株)	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結（20年9月） 高用量での追加Ph1試験（終了）

追加Ph1の結果を受け、データを再確認するために再度Ph1試験を実施中（あすか製薬）

導出品の状況

開発段階	製品名／開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph3	KRP-203	プリオセラ社	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）

その他：（2024年2月6日現在）

DTxの状況

契約先	開発コード	適応症	備考
サスメド	KRP-DT123	耳鳴	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） 特定臨床研究開始（23年9月）